

フェルディナント・ポルシェ博士 生誕150周年記念 新作能『ポルシェ博士』



photo: Kevin Cosuina

令和7年9月4日(木) 開演19時 開場18時半
於：京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町44

一般 5500円 前売 5000円 学生 1500円 **[全席自由席]**

チケット取扱：k45286@atelieroga.com tel. 090-7967-5301 [アトリエオガ]



謎の老人「フェリー・ポルシェ
の霊ダイモーン」等
小笠原由祠 (作・演出)

前川光範

太鼓

河村凜太郎

大鼓

吉阪一郎

小鼓

齊藤敦

笛

河村和貴

大江信行

味方玄

地謡

泉慎也

番頭

能村晶人

手代

小笠原弘晃

青年・竹田嘉兵衛

分林道治

アナンケ女神の三女神

片山九郎右衛門

フェルディナント・ポルシェ博士の霊ダイモーン

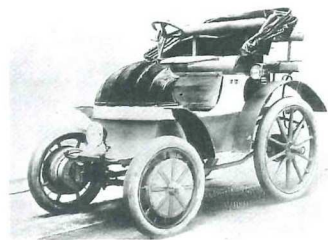
出演

主催：F・ポルシェ博士生誕150周年記念新作能『ポルシェ博士』実行委員会
協力：ポルシェセンター京都

新作能『ポルシェ博士』



フェルディナント・ポルシェ博士、そしてフェリー・ポルシェ氏の夢と情熱は過去 76 年の歴史に渡り革新を続けて、今日のポルシェのエネルギーの源となっています。ポルシェの偉業は今日、世界の多くのモーターファンに、生涯一度は乗ってみたい車という夢を与え、世界のポルシェカス



タマーに所有した喜びと幸せを与え、私共ディーラーには、ナンバーワンのスポーツカーを販売出来る喜びと、ポルシェを自分のものにされた人生の成功者の皆様との出会い、繋がりを頂いています。素晴らしいポルシェの皆様と、この文化を共に楽しめる喜びと幸せを頂くことが出来ました。夢に形を与えたポルシェの偉業に感謝です。この気持ちをフェルディナント・ポルシェ、フェリー・ポルシェ様にお伝えしたい気持ちでいっぱいでした。日本の伝統芸能である能の文化のストーリーでは天国の偉人と会話する物語が多くあります。また、1948 年にポルシェによって創られた 356 no.1 ロードスターの登録ナンバーは 45286 でした。これを私は、何故かシゴニハローと読みました。その時、私の感謝の気持ちを日本伝統芸能の能楽でお伝えする事が出来ないものかと思ったのです。

ポルシェに初めて触れて、最初に感じたこと。美しいスタイルで道を走る(Driving in its purest form)、加速の感動、ブレーキの確かさ、危険を避ける素晴らしいハンドリング。この非日常的感性に目覚めさせられました。人生にも加速と減速、賢い俊敏なハンドリングが必要なのではないか、そして人生を美しく生きるべきだ！と。私もポルシェの様な人になりたいと心から思ったのでした。。ひとつ嬉しいことがあるのです。フェルディナント・ポルシェ博士が 1939 年に世に出したポルシェタイプ 64 が、本来なら最初のポルシェのようですが、私の誕生年と同じなのがとても嬉しいです。この世に一台だけ残っているそうで、驚きました。増え続けるポルシェを愛する多くの人々と、その人生に夢と幸せを与え続けてくれた偉人に感謝しています。

ポルシェセンター京都 株式会社セフティ会長 大島芳孝



現代ドイツ人の高い環境意識を踏まえて、人間と自然、人と人が助け合う調和的な社会をめぐり、青年の成長、ポルシェ博士の教え、励ましを描く作品。

《あらすじ》

創業者一族の末裔である青年は先代急逝により新たに主人就任要請される。後継者となる覚悟を決めた青年は、自身の理想を現実化させる為、本真綿で作る蒲団「綿の羽衣」の商品化について、番頭に意見を求めに行くが、先代主人の意向継承を唱え、青年の意見を受け入れない。

失意の青年は改革を断念する事を決意するが、そこへ不思議な老人が何処ともなく現れて、とても現実味の無いような可笑しな事を語る。しかしながら、徐々に老人の言葉が青年の心に残っていく、ついには老人は巻物を落として消えてしまう。青年は巻物を拾い読み、老人が時空を超えて出現したポルシェの霊(ダイモーン)だと確信するに至る。するとアナンケ女神の三娘神・ラケシス(過去神)、クロト(現在神)、アトロポス(未来神)を伴い、ポルシェの神霊(ダイモーン)が出現し、「神の喜びの舞」を舞い、青年の前途を祝福する。青年は「子供の遊び心を忘れない。自らが理想とするものは、人に与えられてもらうのではなく、自分で作り出す」ことを通じて、人々の平和、地球の循環を守る事を約束し、ポルシェの霊(ダイモーン)はアナンケ女神三娘を伴い、昇天する。

片山九郎右衛門

(かたやま くらうえもん)

観世流能楽師シテ方。1964 年片山幽雪(九世片山九郎右衛門・人間国宝)の長男として京都に生まれる。祖母は京舞井上流四世家元井上八千代(人間国宝)、姉は五世家元井上八千代(人間国宝)。父及び八世観世鍔之丞(人間国宝)に師事。片山定期能楽会を主宰。全国各地で多数の公演に出演する他、ヨーロッパ、アメリカ、台湾での海外公演にも出演。また、学校へ出向いての公演や能楽教室の開催、「能の絵本」の制作、能舞台の CG 化など、若年層のための能楽の普及活動も手掛ける。2011 年に十世片山九郎右衛門を襲名。重要無形文化財(総合指定)保持者。京都市文化功労者。京都府文化奨励賞、京都市芸術新人賞、文化庁芸術祭新人賞、日本伝統文化振興財団賞、

京都府文化賞功労賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。公益社団法人京都観世会会長、公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団理事長。

小笠原由祠

(おがさわら ただし)

和泉流狂言師。重要無形文化財総合指定保持者。公益社団法人能楽協会会員/社団法人日本能楽会会員。初世 野村萬、故八世 野村萬蔵及び、九世 野村萬蔵に師事。萬狂言関西支部代表、東京・大阪・パリ「若菜の会」主宰。東京・京都・パリ「延年之會」主宰。2024 年、「おがさわら乃會」発足、平安時代の猿楽を復元・考証・創作し上演。本年 7 月、エキスポ 2025 にて日本伝統芸能とコンテンツラーダンスを融合した新猿楽「火水火水」を劇作・演出・出演。

分林 道治

(わけばやし みちはる)

能楽シテ方観世流。重要無形文化財総合指定保持者。1967 年、京都に生まれる。1971 年(四歳)玄象にて初舞台。分林保三(祖父)、分林弘一(父)に師事。東京芸術大学音楽学部邦楽科能楽専攻卒業。片山幽雪(人間国宝)、十世片山九郎右衛門に師事。2019 年、能舞台・茶室完備の複合ビル「真語会館」を建設。タリン(エストニア)、ダバオ(フィリピン)、サンパウロ(ブラジル)、パリ、ロンドンで公演団長を務め、ドイツ、スイス、アメリカ、台湾など多数の海外公演に参加。令和 8 年 11 月にミュンヘンにて能公演を予定。日本能楽会会員。京都観世会理事。学校法人燈影学園非常勤講師。